

## 【(1) 学習のルール】

②－2「聞くとときと作業するときを分けている」

## 【(4) 授業の展開】

②－6「聞くとときと作業するときを分けている」

### 《つまずきの背景》

A 刺激の影響の受けやすさ、C 記憶力の弱さ、H 刺激の選択の困難さ、I 目と手の協応動作の困難さ、M 自己コントロールの困難さ、N 注意の持続の困難さ

### 《解説》

子どもが一つの作業をしているときに次の作業の説明をしてしまうと、説明がうまく伝わらず、再度説明の必要な状況が多くなります。追加説明が必要な場面では、一旦、その作業を中断させ、子どもが集中できる状況を作った後に、話をするというルールづくりをしておくことが大切です。

学級の中にいる、刺激に対して敏感な子どもや注意の持続が困難な子ども、行動や欲求をうまくコントロールできない子どもは、一つのことをしているときに他の刺激が入ると集中できなくなります。また、記憶力が弱い子どもは、作業中に次の指示が入ると理解できにくくなります。また、目と手の協応動作が苦手な子どもは、作業することに精一杯で話を聞くことができなくなります。聞くとときと作業するときを分けることで上記の困難さを軽減することができます。

年度当初に学習のルールとして子どもたち全員に説明し、徹底するようにすると学級全体に浸透しやすくなります。

### 【工夫点】

- ・発表を聞くときは、作業をやめさせ発表する方に注目させる。(小中高 工夫例8)
- ・大事な説明をするときには、ノートをとるのをやめさせ、後でノートをまとめる時間をとる。(小中高)

### ◆工夫例8 「発表を聞くとときには作業をやめさせ発表する方に注目させる」



#### 《小・中・高等学校》

子どもが板書をノートに写しているときには、説明することは避けます。そうすることで子どもは写すことに集中できます。

また、説明を聞くとときには、ノートを写すことをやめて、話に集中させるようにします。

学級の中には、一度に複数の情報を処理することが困難な子どもがいる場合があります。情報の提示に当たっては、「一つのことが終わってからまた一つ」が原則となります。